

オンラインセミナー  
「2050年脱炭素社会の実現に向けて私たちができること ～コロナ禍からのグリーンリカバリー～」  
(令和3年2月4日開催) 質問に対する回答

No.	質問	回答
1	<p>神奈川県として、脱炭素に逆行する火力発電や、安全性や廃棄物問題で透明性のない原発にどのような立場にあるのか教えていただきたい。</p> <p>一方、脱炭素社会に不可欠である太陽光発電や風力発電において、自然破壊や地域住民との協議などがなおざりにされている事例が全国各地で多々報告されている中、神奈川県としてどのような政策を具体的に推進していこうとするのでしょうか。</p> <p>また、そうした自然再生エネルギーの蓄電にとって必要な蓄電池や電気自動車に使われているリチウムバッテリーにはアフリカなどに偏在する希少金属が必須で、その資源開発のためにそうした資源国の地域で自然破壊や人権侵害が現在進行形で、かつ、現時点ではそのリサイクル事業も日本ではコストなどの問題で進展していないのが現状です。そうした事情に対して資源のない日本として、特に神奈川県としてどのような方針をもっているのか聞かせていただきたい。</p> <p>以上の点を総合して、神奈川県として脱炭素社会のエネルギー政策を明確に示していただければ幸いです。</p>	<p>本県では、「原子力に過度に依存しない」、「環境に配慮する」、「地産地消を推進する」の「3つの原則」を基本理念に掲げた「かながわスマートエネルギー計画」に基づき施策を進めることにより、原子力発電や火力発電などの集中型電源から、再生可能エネルギーをはじめとした分散型エネルギー源への転換を目指しています。</p> <p>環境影響評価法及び環境影響評価条例に基づき、一定規模以上の太陽光発電施設や風力発電施設の建設について、その事業が周辺の環境に与える影響を事業者自らが調査・予測・評価し、その結果を公表して、住民・事業者・行政が意見を出し合い、事業計画を環境保全上の見地からより良いものにしていく「環境アセスメント制度」をすでに運用しています。</p> <p>希少金属の資源循環については、資源輸入国である日本にとって重要な取組であると認識し、「廃棄物ゼロ社会」の理念のもと、希少金属が含まれる小型家電のリサイクルを市町村や事業者と協力して推進しています。</p>
2	<p>ゼロ社会実現手段の一つとして森造りがあると思うが、林業活性化を含め活動計画の提言をして欲しい。</p>	<p>ネットゼロに向けた取組の一つとして、現在ある森林を劣化・消失させないよう、適切な森林管理を継続・促進していくことが重要です。</p> <p>また、今後、化石燃料由来のマテリアル代替として木材の利用が進めば、林業活性化につながる可能性もありますが、そのためにも、代替する木材のカーボンフットプリントを下げるなど、林業施業における排出削減も取り組む必要があります。</p>
3	<p>就職先が環境とはかけ離れていたとしても、個人として環境に対してアクションを起こすことは可能なのでしょうか。IT企業に就職しようと考えているのですが、環境問題にも関心があり、個人としてできることがあるのか知りたいです。</p>	<p>就職先が環境の分野とはかけはなれていたとしても、できることはたくさんあります。</p> <p>仕事として、環境について取り組めるのも素敵ですが、相対的に見たらそうではない人の割合のほうが高いので、そういう人の取組が重要になってくると思います。</p> <p>たとえば、何かものを買うときに、より環境に負荷の少ないものを選ぶ、オーガニックのものを選ぶというのも、消費も投票と同じなので、一つのアクションと言えます。</p> <p>質問をくださった方は、IT企業とのことで、プログラミングなどIT企業で得た専門知識を得たことをアクションに向けて使うこともできると思います。あなたにしかできない、環境に対するアクションがあると思います。環境の活動をしているコミュニティなどもあるので、ぜひそこに参加してみてください。</p>